教団新報

定　価　1部220円（本体200円〒共283円）
予約購読料　1年分　〒共　3,962円
紙代のみ　3,080円
振替 00140－9－145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所　日本基督教団
169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内　電話03（3202）0546
FAX03（3207）3918
URL http://uccj.org
発行人　網中彰子
編集主筆　嶋田恵悟
印刷所　株式会社きかんし

富士見町教会前広場（東京教区）

イエスはそこをたち、通りがかりに、マタイという人が収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。イエスがその家で食事をしておられたときのことである。徴税人や罪人も大勢やって来て、イエスや弟子たちと同席していた。ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、「なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。イエスはこれを聞いて言われた。「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」
（マタイによる福音書9：9～13）

メッセージ

罪人を招くために来た

マタイによる福音書9章9～13節

藤盛 勇紀

呼ばれて立ち上がる座っていた者

徴税人マタイが、イエスに召されて弟子となる。この「マタイ」は、マルコ福音書やルカ福音書ではユダヤ名「レビ」だが、マタイはこの福音書を書いたマタイと考えて良い。記事は実に簡潔だ。あまりにもあっさりしている。自分のことだからか。しかし、この極めて簡潔な記述の中に、マタイ自身が経験した真実が、凝縮されているように思われるのだ。

マタイは収税所に「座って」いた。何でもないことだが、イエスは彼が「座っているのを」ご覧になった。金の勘定でもしていたのだろうか。しかし、「座って」いたことを記しているのはマルコもルカも同じ。座っていたマタイは、イエスから呼ばれると「立ち上がった」。そして思いもしなかった新しい生が開かれた。単純な話だ。

私の教会の周辺では、夜になると若い人たちがコンビニで酒やつまみを買って、ベンチや地べたに座って小宴会をしている。歓迎会や忘年会シーズンになると綺麗な広場も汚されていることがしばしばだ。そんな様子を見ると、私が迷惑を被ったわけでもないのに、「なんだアイツら」と思う。しかし、その度に自分に言う（聞こえる）のだ。「お前は伝道者だろ。アイツらの中に入って行くくらいでなくてどうする」。でも、どうせ変なおっさんと思われるだけだろうし、地べたに座る若者たちは、「汚い」と思われようが、「おかしい」と言われようが、通りがかりのおじさんに注意されようが関係ないのだ。そう思いながら、彼らを横目で見ながら、私はまたビールを買って一人帰る。

マタイは座っていた。しかしこれは、宴会ではない。ふだんのふて腐れた態度なのか、人生を投げた開き直りか。徴税人は一定額を納めさえすれば、あとはローマの権力を笠に取りたいだけ取る。貧しい同胞にも容赦ない。あのザアカイのように金持ちになり、悪魔のように忌み嫌われる。そんな仕事は、開き直ってなければ無理だ。「どうせ俺は、神の恵みだの救いだのには関係ない。どうせ新しく行く所もない。悪魔だ売国奴だと、何とでも言え」。

そんなマタイに、イエスは声をかける。「私に従いなさい」。「はあ？どこのおっさんだよ」と悪態をつかれておしまい、でもおかしくなかった。しかし、そうではなかった。なぜか。マタイ自身も分からなかっただろう。なぜか分からないまま、マタイはイエス一行を招いて宴会を開いた。しかも「徴税人や罪人も大勢やって来て、イエスや弟子たちと同席していた」。娼婦らもいただろう。この楽しげで怪しげな宴会には、人から後ろ指を指される連中が集まった。傍から見れば、いきなり大変なことになっているが、イエスにとっては珍しいことではなかった。

イエスに触れられた者として出て行く

イエスは彼らをどう見ておられたのだろうか。「人から色々言われる連中だが、付き合ってみれば、本当はいいヤツら」なのか。「一緒に飲み食いして腹を割って話をすれば仲間になれる」ということか。しかし、そんなことで人を真の命に導くことなど無理だ。

イエスは言われた。「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。…わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」。イエスは、一緒にいる人々は「病人」「罪人」なのだと言われる。座っている所から自分で立ち上がって出て行けない病気なのだ、的を外したまま、その罪に堕ちたまま生きるしかない囚人なのだと。

ところが、そんな罪の中に座り込んでいる病気のマタイを見て、イエスは「私に従って来い」と言われた。マタイの心にいったい何が生じたのか。聖書はそんな心理描写に関心はない。イエスはマタイをご覧になった。そして彼に呼びかけた。するとマタイは立ち上がった。そしてイエスに従った。それだけだ。彼の生き方がどうなったのか、だけが記される。

彼は立ち上がってイエスに従った。そして派手な宴会を催した。同胞も食い物にするマタイは今や、イエスと周囲の罪人たちのために自分の財産を使っている。イエスがおられる所に生まれる不思議な交わり。こんな交わりは経験したことがなかった。しかも、誰の目を気にするでもない解放感。マタイ自身驚いただろう。どうしてこんなことになったのか。理由は一つ。他でもないイエスが彼をご覧になって、呼ばれたから。それだけ。

イエスの眼差しは、いつもの人々の眼差しとは違った。軽蔑する目でも、恐がって見る目でもない。上から憐れむ目でもなければ、真面目人間ファリサイ派の裁く目でもない。イエスの眼差しは、人のそれではなかった。全てを投げ捨ててでも、この方について行きたい。なぜかそう思わされる眼差しに、マタイは捕らえられた。

『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。この言葉は、ホセア書の主の言葉を思わせる。「ああ、エフライムよ、お前を見捨てることができようか。イスラエルよ、お前を引き渡すことができようか。…わたしは激しく心を動かされ、憐れみに胸を焼かれる」。

ホセアは、「淫行の妻をめとれ」と主から命じられる。なぜなら「この国は主から離れ、淫行にふけっているからだ」と。主は、そんなどうしようもない民を憐れんで「胸を焼かれる」。

それを、「行って学びなさい」。「行け」とは「出ろ」ということ。「出て行け」と。しかし私（たち）はひるんでしまう。アイツらの中に、なかなか出て行けない。

イエスは罪人たちに、「私があなた方の罪を負う」とか、「私があなた方の代わりに裁きを受けて死ぬ」などと、恩着せがましいことは何一つ言われなかった。ただ、口を開かずに屠り場に引かれていく小羊のように、死んでしまわれた。

自分が何をしているのかも知らずにいい気になって「十字架に付けろ！」と叫ぶアイツらを後ろ手にかばうように、死なれた。「父よ、彼らをお赦しください」。

このお方とその言葉に触れられると、なぜか立ち上がる。主よ、私たちも出て行きます。

（富士見町教会牧師）

能登半島地震から1年　報告

魂への配慮を大切にした再建を願う

上＝輪島教会、下＝魚津教会

能登半島地震から1年が経過いたしました。この1年、全国の皆さまから、多くのお祈りとご支援をいただき感謝いたします。

中部教区において、2025年1月1日、地震発生時16時10分に合わせてオンライン祈祷会を持ちました。聖書朗読、御言葉を受けての祈祷、そして、輪島教会、七尾教会、羽咋教会、新たに被害報告された魚津教会から祈りの課題を出していただきました。それを受けて祈祷の時を持ち、賛美をささげ、主の祈りを祈りました。オンラインではありましたが、共に課題を分かち、祈りをささげ、主による慰めと平安を心に刻むひとときが持てたことは感謝でした。

第43総会期に継続された能登半島地震被災教会会堂等再建支援委員会で新たに選任された宮本義弘委員長と一粒社ヴォーリズ建築事務所東京事務所所長の佐々木真所長と私の3名で、1月6、7日、羽咋白百合幼稚園・ゆりっこクラブ、七尾教会、七尾幼稚園、輪島教会、富来伝道所、羽咋教会を訪問しました。未だどの町も震災被害の痛みを抱えながら日々を過ごされていました。特に輪島の町は、解体が始まっていますが、人の往来はほとんどなく、ただ工事の音が響き渡っている印象でした。輪島教会教会堂は、訪問した日に公費解体が始まった時でした。礼拝の場が壊されて行く姿は心が痛みました。

中部教区としては、皆さまからいただいた募金を用いて、被災4教会への教会支援を行っています。具体的には、第1に今回の地震によって教会会計が厳しくなっている現状を受けとめ、それぞれの教会から会計状況報告と申請を出していただき、負担金援助、特別謝儀援助、特別伝道費援助を行っています。第2に教会活動支援に必要な援助を行っています。また、被災地域のボランティア活動については、教団能登半島地震災害窓口と現地被害状況を共有し合い、教団から災害ボランティアを募集、派遣してくださっています。

震災によって、建物の被害、人的な被害、精神的な疲労が増しています。その上で、キリストの体なる教会をどのように形作って行くのかが、これからの大きな課題と考えられます。特に輪島教会においては、教会で主力となっていた教会員の多くが、町に戻れない状況が続いています。会堂と牧師館を解体し、再建に向かって歩む中で、いろいろな判断が求められます。何よりも、輪島の地で、共にキリストの福音を宣べ伝えてゆく力が与えられるようにと願います。

ニュースなどの報道は、目に見える被害やそれに伴う苦難の状況は伝えられますが、教会にとっては、それだけでなく、壊れそうになっている魂への配慮が大切になると感じます。そのために、共に祈り、共に主をほめたたえ、何よりも主イエス・キリストが与えてくださる信仰と希望と愛、その福音に生きるために何ができるかを祈りつつ、再建を願っています。

（加藤幹夫報）

上＝七尾教会、下＝羽咋教会

兵庫県南部大地震記念の日追悼礼拝

「出来事が問う、その問いを石畳として」

神戸教会にて

1月17日の午後6時より、神戸教会において、兵庫県南部大地震記念の日追悼礼拝のときがもたれました。1995年1月17日の地震から30年の時を経て、なお癒えることのない痛みを抱えた多くの方たちと共にありたいと願いつつ、また、能登半島の地震や津波・豪雨の災害に至るまで、この間に起った様々な災害からその都度問われてきたことをもこころに留めつつ、祈りを合わせるときとなりました。

「被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白」を共に唱え、司式者の新堀真之さん（甲東教会）の祈りにこころを重ねました。そして、奏楽の瀬尾千絵さん（神戸教会）の奏でるパイプオルガンの音に合わせて讃美をともにささげました。

説教者は西澤他喜衛さん（曽根教会・須磨教会）でした。説教題は「出来事が問う、その問いを石畳として～地域の再生なくして、教会の復興はありえない」。

震災の年の兵庫教区定期総会で副議長となり、後に議長として、また兵庫教区震災対策特設委員会の責任者としても、そして被災者生活支援・長田センターの初代責任者としても、兵庫教区の震災への取り組みの中にあって長く重責を担ってこられた立場から、この間の兵庫教区の歩みを振り返りつつ、今またわたしたちは何を問われているのか、力強くメッセージが語られました。

出席者は会場で105名、YouTubeでの参加者は、同時最大で115名でした。礼拝の様子はYouTubeで今もご視聴いただけます。「日本基督教団兵庫教区」のYouTubeチャンネルを検索してくださるか、「日本基督教団兵庫教区事務所」で検索し、そこからリンクを辿ってくださると簡便です。

お寄せいただいた礼拝献金は、オンライン参加者の分もありますので、後日兵庫教区の発行する「震災ニュース」にて合計額をお知らせいたしますが、全額を東日本大地震・津波・原発事故被災者、能登半島大地震・津波・豪雨災害被災者、「アハリー・アラブ病院を支える会」によるパレスチナ・ガザの人々の支援等に用いさせていただきます。

（森　なお報）

2・11メッセージ

今年、第47代アメリカ合衆国大統領にD・トランプ氏が就任した。8年ぶり2期目の就任となり、返り咲きの大統領としては132年ぶりだという。1期目の就任時も選挙期間中から過激な発言で物議を醸したトランプ氏だが、気づけば共和党の指名候補となり、本選挙ではまさかの圧勝。今回は更に鮮やかな圧勝ぶりであった。

世界に広がる「排除と自国第一主義」の空気は益々強まり、「合衆国」という建国時の精神さえ揺らぎ始めている。ある人々は「偉大な国を再び取り戻そう」と歓喜し、国を二分する溝が深まっている。かつては「格差社会の表面化」と説明されたが、今回のトランプ支持派は貧民層のみならず、IT企業のトップたち富裕層も名をつらね、世界情勢の変化をうかがわせるものであった。

「アメリカ・ファースト」がより声高に叫ばれる中、日本はどうなるか。特に敗戦から80年を迎える今年2月11日の「信教の自由を守る日」集会には多くの方々の参加を切望している。国家がこの日を「建国記念の日」として祝わせようとする背景を知り、憲法20条の「信教の自由と政教分離」の精神が空洞化されないためにも、教会の意識が重要になる。「おまえも日本人だろう」との縛りは戦時中だけではなく、今も続いているのだから。

ウクライナとパレスチナにおける戦争終結と人々の平安を祈ることは教会の大切な使命である。同時にこの国が再び同じ過ちを繰り返すことがないよう真剣に祈り求める使命もある。その際に忘れてならないことは、日本基督教団も戦時下において正しい判断ができなかった歴史的事実である。信教の自由を守るためになすべきは、国に要請することだけでなく、自らを律し、教会が教会であるために保持すべきものを見失ってはならないことだと思えてならない。

トランプ政権を選択したアメリカをはじめ、自国第一主義が強まる世界情勢は、決して対岸のことではない。

2025年1月29日
第42総会期日本基督教団社会委員　真壁　巌

カルト団体の接触に関する注意喚起（新天地）

韓国発祥のキリスト教系団体である「新天地（新天地イエス教証拠幕屋聖殿）」が、2021年9月以降、日本各地の諸キリスト教会に対し、電話やメールなどを用いてオンラインセミナーや集会への参加を勧誘しているという報告が、各地の教会から寄せられています。また、2023年以降も、「同じ聖書を使っているのに、自分たちは異端と誤解を受け続けているので、教義について話し合い、誤解を解かせてほしい」と呼びかけるメールや手紙が多くの牧師に届いています。

新天地は、李萬熙（イ・マニ）氏を代表とする団体であり、独特な聖書講義を通して李氏がメシアであるという教えを導いています。韓国における活動の特徴としては、新天地の信者が身分を隠して既存の教会に潜入し、長い時間をかけて教会の信頼を得たのちに、さらに新天地信者を連れてきて、教会を混乱に陥れ、最終的には新天地に属する牧師を招くことによって、新天地の教会にしてしまうという手法をとります。それにより、多くの既存教会が新天地に乗っ取られました。

日本では、この新天地が関与するオンラインセミナーへの参加を促す直接訪問、あるいは電話での勧誘を受けたという報告が多くの教会から寄せられています。また、留学生を名乗る人物がオンライン礼拝を行っている教会に対して、電話もしくはメールで「友人の韓国人宣教師があなたの教会の宣教を手伝いたいと言っている」とか、宣教師を名乗る人物が「急に帰国しなければならなくなったので自分のところの信徒を引き継いで欲しい」といった虚偽の内容を伝え、潜入を目論む事例が見受けられます。

その際に、自分たちが何者であるかを明らかにせず、韓国主要教団名を名乗って近づこうとします。また、HelloTalkなどの会話アプリやオンラインゲームのチャットを通して知り合ったメンバーが、正体と目的を隠して「心理学を教える」という名目で、青年や学生を引き込んでいるケースも見られます。

さらに、偽装勧誘と並行して、新天地のメンバーであることを明かした上で、「聖書を基準にして、私たちが異端なのかどうか、直接、私たちの教理についてYouTubeを通じて判断していただければ幸いです」と呼びかける接触も行われています。このような団体の集会やセミナーに参加することは、参加した本人だけでなく、「○○も、○○も参加している」と聞かされた周りの人たちにも影響を及ぼすため、接触を拒むことが賢明です。

また、新天地のみならず、類似の問題を持つ他団体からも、集会や聖書勉強会への勧誘、教会への接触が行われていることが報告されています。これら議論ある団体に関する詳細については、カルト問題キリスト教連絡会から発行している小冊子『カルトって知ってますか？』をご覧くださり、少しでも不審を感じたら、相談機関にお問い合わせください。

2025年1月20日

日本基督教団カルト問題連絡会

「信教の自由」を名目にした旧統一協会の接触に関する注意喚起

昨年、文部科学省から、東京地方裁判所に世界平和統一家庭連合（旧統一協会）の解散命令請求が出されて以降、旧統一協会のメンバーが、キリスト教会や牧師を訪ね、「行政から宗教団体に対して解散命令を行うことは、信教の自由に反する不当な行為である」「信教の自由を守るために、同じ宗教者として協力してほしい」というように、団体の擁護を求めて接触してくる事例が、複数報告されています。

確かに、あるものを信じることや、宗教活動そのものを制限するために、国家が宗教団体の解散命令を行うのであれば、これは不当な行為です。しかし、その団体が、宗教活動という名目で、不法行為や人権侵害を行っているのであれば、法人格を持たせたまま放置することこそ、信教の自由の侵害をもたらします。

なぜなら、信教の自由は、宗教を「信じる自由」と「信じない自由」の両方が尊重されて成立しますが、偽装勧誘や霊感商法・霊視商法に見られる悪質な手口は、明らかに「信じない自由」を奪い、個人の自己決定権を侵害するもので、単なる布教の域を超えているからです。

「営業の自由があるから、企業の営業停止処分は不当である」という主張を安易に支持してしまった場合、悪徳企業が放置され、かえって健全な営業が脅かされるように、「信教の自由があるから宗教団体の解散命令は不当である」という主張も、安易に支持してしまうことで、反社会的な宗教団体が放置され、かえって健全な宗教活動が脅かされる恐れがあります。

処分の目的が「被害の拡大を防ぐこと」なのか「信仰すること・宗教活動そのものを禁じること」なのか冷静に判断しなければなりません。解散命令請求を受けた団体が、「信教の自由を守る」という名目で、理解や協力を求めるとき、処分の目的を意図的に歪ませ、自分たちを擁護することに加担させようとしてないか、宗教者も、教育者も、メディア関係者も、慎重に見極める責任があります。

昨年11月に、カトリック中央協議会、在日大韓基督教会、日本イエス・キリスト教団、日本基督教団、日本聖公会、日本バプテスト連盟、日本福音ルーテル教会、日本キリスト教協議会が連名で出した『世界平和統一家庭連合（旧・統一協会）に対する解散命令請求に関する声明』でも述べられているように、旧統一協会は、法令に違反し、著しく公共の福祉を害する「破壊的カルト」と認識されています。

そのような団体から、対外的な自己正当化のアピールに使われかねないアンケートの回答や、話し合いを求められた場合、安易に協力しないよう注意していただければ幸いです。

2025年1月20日

日本基督教団カルト問題連絡会

カルト対策に関する各学校へのお願い

2009年に強姦致傷等で10年の実刑判決を受け、2023年に再び準強姦や強制わいせつなどで23年の実刑判決を受けた鄭明析（チョン・ミョンソク）が総裁の「キリスト教福音宣教会」（以下、通称名「摂理」）に、多くの大学生や中高生が取り込まれています。鄭明析は、旧統一協会（現：世界平和統一家庭連合）の元信者で、1979年頃に摂理の教会を創設して以降、信者に対する性的被害を相次いで起こしてきた人物です。

摂理は、以前から正体や目的を隠した勧誘を行っており、現在では、SNSを駆使した偽装勧誘を行っています。同じ学校の先輩や卒業生を装って、ターゲットの投稿に「いいね」やコメントなどをつけ、良い印象を持たれた頃にメッセージを送って友達になり、やがて摂理のダミーサークルやフロント組織が主催する集会へ誘うようになります。

自分たちの正体が摂理であることを明かすまで、半年から一年以上かけることもあり、すっかり関係ができあがってから正体を知らされたメンバーは、自分が騙されたとは思えません。むしろ、大切な仲間ができたと思い、摂理から引き離そうとする家族や友人を「サタン」と恐れ、距離を置くようになってしまいます。

同様の手法で、オウム真理教の後継団体の一つである「アレフ」も、若い人たちを取り込んでいます。最初は、「こころの相談室」や「メンタルヘルス講座」などを主催する団体としてターゲットにメッセージを送り、相談や勉強会を重ねて信頼関係を築いた後、「地下鉄サリン事件などはオウム真理教以外の者による陰謀である」などと説明して、団体に対する抵抗感を持たないように誘導します。

他にも、外国の言語を学習するためのアプリを使って、何も知らないターゲットと仲良くなり、自分たちの主催するオンラインセミナーや集会に誘おうとする団体や、オンラインゲームのチャットを通して関係を築き、「一緒に心理学の勉強をしてみないか？」と誘う団体もあります。実際に、誘われた集会や勉強会へ行くようになると、最初に告げられた目的とは異なる宗教の教えを学ぶ勉強へ、徐々に移行していきます。

中には、素直な生徒や学生を勧誘させるため、先に、学校の教師を取り込もうとする団体もあります。環境問題、SDGs、世界平和、人権問題、信教の自由などをテーマにした講演会や勉強会に、大学の教師を講師として呼んだり、宗教間対話や超教派の勉強会を名目に、ミッションスクールの宗教主事へ参加を呼びかけたりすることもあります。

このように、多くの破壊的カルトは、大学キャンパスでの警戒や対策が進むにつれて、より巧妙な偽装勧誘を模索し、対策が手薄な中高生に対象を広げてきています。各学校においても、生徒や学生に対する注意喚起、教職員への研修を通して、対策を強化していただけるよう、どうかよろしくお願いします。

2025年1月20日

日本基督教団カルト問題連絡会

事務局報

小泉富子（隠退教師）

24年11月15日逝去、89歳。栃木県生まれ。68年日本聖書神学校卒業、同年より美竹教会を99年まで牧会し、隠退。遺族は妹・北村節子さん。

菅生昌利（隠退教師）

24年11月26日逝去、84歳。三重県生まれ。64年東京神学大学大学院修了、同年より輪島、阿漕、尾陽、茨木東、富山二番町教会を牧会し、01年隠退。遺族は妻・菅生千榮子さん。

北島敏之（隠退教師）

24年12月17日逝去、95歳。大連生まれ。54年日本基督教神学専門学校卒業、同年より別府不老町、鹿児島、代田教会を牧会し、00年隠退。遺族は妻・北島和子さん。

加藤　哲（隠退教師）

25年1月24日逝去、65歳。石川県生まれ。84年東京神学大学大学院修了、同年より御殿場、鎌倉雪ノ下、西東京教会を牧会し、24年隠退。遺族は妻・加藤基愛さん。

正教師登録

鳥潟紘一（2024・11・23受按）
山森風花（2024・12・10受按）

教師異動

いのちのことば
辞（担）鈴木喩香子
〃　辞（担）佐原繁子
庄原　就（代）服部　修
浜松　就（代）髙　承和
宮崎中部辞（主）乾　元美
〃　就（代）岩住啓太
神戸神愛辞（代）服部　修
〃　就（主）乾　元美
桃山　辞（主）田中ケイ子
〃　就（代）田口博之
甲和北　就（代）岸　憲秀
松山東雲学園　辞（教）水島祥子
頌栄保育学院　就（教）水島祥子

教会種別変更

大洲（第一種から第二種へ）
香美（第一種から第二種へ）

伝道所所在地変更

福野　〒939－1507　南砺市二日町1331－51

教師改姓

国岡スーメリーなつみ→シュルモリなつみ

キリスト教教育主事異動

札幌元町　辞　藤巻朋子

伝道報告

伝道のともしび

TOMOSHIBI

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道推進室より応援した教会・伝道所

この地にある教会としての歩み

大台めぐみ教会牧師　吉川　進

三重県の伊勢神宮の脇から海に出る宮川は、奈良、和歌山との県境にまたがる大台ヶ原山を源流とする清流です。

大杉谷と呼ばれる渓谷を20キロほど下った荻原村に明治中期に生まれた少年が、病弱の幼年期を越えて伊勢の県立中学校に進み、山田教会でキリストの福音に触れたのが、1900年。病弱の少年は同志社神学校に進み、設立間もない京都同胞キリスト教会に所属する神学生からやがて同胞キリスト教団の指導者となる。これが、のちに日本基督教団成立後から、大戦後も長く京都教区長を務めた安田忠吉牧師。病気で何度も死線をさまよい、その都度命を与えられた安田師は、神の恩寵を熱く説く説教者・伝道者とされ、優れた指導力で教派を育てた。

1946年安田師は、ホーリネス迫害の時に廃止された尾鷲教会を再興するよう、小出忍牧師に促した。自らの生地にもキリストの光を、と同年9月から荻原中学校の校舎を借り、小出師が尾鷲から月1回の出張で礼拝を開始させた。その後、メソジスト教会の牧師であった鈴木義徳牧師に開拓伝道を託した。翌47年1月に村から土地と建物の払下げを受け、保育園も村の教育の象徴となった。こうして、1947年7月24日に荻原教会（二種教会）が設立された。

さらに1951年4月、同じ郡内で、居住者の多い三瀬谷駅近くに三瀬谷伝道所を設立し、54年から三瀬谷で朝礼拝、荻原で夕礼拝の構成で鈴木師が主任教師を併任する体制とし、外部から牧師たちを講師に呼びながら特別伝道礼拝を頻繁に行った。

三瀬谷伝道所は、56年に三瀬谷教会として新たに教師を招聘し、その後5名の教師によって牧会されたのち、1980年に荻原教会を吸収し、鈴木師を主任教師として大台めぐみ教会に合同した。64年から始めた紀勢線沿線の紀伊長島、尾鷲両教会とのブロック伝道は、毎年行う研修会となり、のちに年1回の合同礼拝として、現在も続けられ、教会相互の励みとなっている。

88年に鈴木師が引退し、5名の教師方が継承後、2010年に紀伊長島出身の町田久子牧師が地域での人脈を通じて教会につながる講演会などを工夫した。2015年から吉川が牧会を引き継いで、音楽会、落語会などを通して教会に人が出入りする工夫をして現在に至る。

荻原、三瀬谷の両教会が、草創期から保育園の事業で地区の幼児教育に貢献、教会の伝道に大きな力を与えられたが、61年に保育園が町立となることで子供たちとのつながりが急激に薄くなったことは残念である。鈴木師が一族で、荻原の地に移り住んで長く牧会に当たった働きは草創期を支え、最も記憶される。

教会は、伊勢の奥にあるこの地理的状況にぜひ残したいと願っています。伝道の在り方に工夫が必要なのか、課題を感じています。主のみ旨が成りますようにと祈らされています。

上＝教会掲示板と会堂、十字架
中・下＝ある日の集会後、愛餐会

東京教区北支区「みんなで新年礼拝」

分かち合い、助け合い、共に生きる1年のために

1月13日に信濃町教会を会場に新年礼拝を以下のタイムスケジュールで行いました。11時より礼拝。12時より共に昼食、発題・応答、話し合いとまとめ。

2024年度活動方針の一つである、「地域ごとの教会間の交流・協力」に重点をおき企画し、ゲストに小林よう子奥羽教区議長をお招きし挨拶と応答をいただきました。

礼拝では本郷中央教会の米山結実牧師にエステル記とヘブライ人への手紙より「伴走者イエス」との説教をしていただきました。困難にあっても主イエスが伴走者としていてくださること、教会もまた主イエスが共に走ってくださっていることを力強く語ってくださいました。讃美3曲のうち2曲は、弓町本郷教会の二俣泉さん作詞作曲の讃美歌を用いました。

「発題と応答」では、石神井教会の村上実基牧師から「支区は教会たりうるか?」との発題をしていただきました。九州教区・神奈川教区での経験を通して牧師会でお互いの教会の情報が密に行われていることや、地区の教会から自分の教会を考えることをお話しくださいました。小林議長からは、「奥羽教区は小さい教会が多いが、それでも頑張りたい。教区の教会性を大切にしていて教派性よりも地域性が先立っている」とのこと。

昼食時には池袋西教会と信濃町教会の信徒3名による三重奏があり、にじのいえ信愛荘のためのバザーもあり、くつろいだ雰囲気の中で分かち合いの時を持ちました。

参加者は支区内17教会から約80名でした。参加者からは楽しかったとの感想がありましたが、北支区には48の教会があり「みんなで礼拝」を捧げることができたか課題です。教会員の高齢化が進み苦闘している状況だからこそ、主イエスが共に走ってくださっているのだから信条の違いを越えて共に生きよ、と語られる神様のみ声を聞いたように思います。

（高橋真軌報）

「東日本大震災14年を覚えての礼拝」日程は、教団ホームページをご覧ください。
https://uccj.org/news/50556.html

人ひとときひと

伊津見七生子（いづみ なおこ）さん

伊津見七生子さんは、うまれた時からの若松っ子（北九州）。それも、住まいは教会の近所ばかり。友達に誘われて小学1年生で日曜学校に。以来70年余、若松浜ノ町教会に通っている。若松高校2年時のクリスマスに受洗。当時の小林矩表牧師が「（生涯）教会とつながっていますように」とお祈りしてくれた。

高校3年時、病弱だったお父様が逝去。卒業後、教会員が経営するクリニックに就職した。結婚し、お連れ合いと若松の商店街で飲食店を営んだ。子育ての責任をはたし、店を閉めた伊津見さんは、教会の奉仕と市民運動の取り組みに力を注いできた。

戦争責任を覚えて

教会の役員であり奏楽者。北九州地区ではヤスクニ・人権委員、九州教区の常置委員や伝道センター委員などを長年担っている。

1985年以来継続している在日大韓基督教会折尾教会との教会同士の交流。このことも戦争責任の歴史を学び、市民運動につながるきっかけの一つ。「小田山墓地朝鮮人遭難犠牲者追悼集会」の実行委員、「わかまつ九条の会」世話人、「日本軍『慰安婦』問題解決のために行動する会・北九州」のメンバーとなり諸課題に取り組んでいる。

教団成立当初、若松浜ノ町教会も「宮城遥拝」等、戦時体制に協力した。心の痛みと共に「教会を護るために仕方のないことだった」と語る先輩信徒の言葉を理解できずにいたが、「教会があったから、日曜学校につながり信仰が与えられ、今の自分がある」とも考えるようになった。

親族が戦時中の満州で軍需工場を営んでいた。敗戦後、「戦犯」とされた叔父もいる。「戦争責任を自覚し、悔い改めつつ、すべての人の人権回復をめざす。これがライフワーク」と伊津見さん。教会の礼拝から押し出され、活動を続けている。

若松浜ノ町教会員

新年祈祷会を通しての恵み

高知教会では、毎年最初の祈祷会を「新年祈祷会」として、役員が奨励を担当している。

今年担当した役員は、都合で出席できなかったので私が代読をした。その中で、改めて、礼拝の持つ意味、自分にとって洗礼や聖餐とは何かについて研鑽していきたいと書かれ、最後こういう言葉で閉じられていた。「特に今年は、復活について深く学ぼうと思っている」と。

この言葉を読み、とても考えさせられた。信徒の方々が、今何を求めているのか、その一端を知らされたように思う。今年の高知教会の修養会は、信徒の準備委員の意見で、「信仰義認」について学ぶことになっている。また、昨秋の四国教区全体修養会の主題も「死について」であった。これも、信徒の準備委員の意見であったと聞く。

このようなことを通し、信徒の方々が、信仰の内容について、深く受け止めたいという思いがあると感じさせられている。勿論、それは、教科書的ではなく、聖書が示す真理を自分に深く関わることとして、生き生きと受け止めたいということだと思う。その求めに、自分がどう歩むかと問われる思いがする。信徒の方々が求めている信仰の深い問いを受け止め、聖書に聞いて示される真理を共に分かち合う。そのためにも、信徒の方々と御言葉に深く聞いていきたい、それが、私の新年の祈りとなった。

（教団総会書記　黒田若雄）